

[11_04]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1472543>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 11 (4), 1978-09-01. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



随 想

上 原 春 男*

私は、今年1月突然佐賀大学の計算機室長に就任しました。というのは、先代の桑原教授が、突然電子計算機室で倒れられ、去年の春になくなられ、早急に計算機室長を決める必要があって、暫定的に私にやれということで、引き受けた次第です。

突然、室長になり、且つ若輩のために、今までの計算機の運営の仕方とか学内のユーザーの計算機室に対する要望がわからず困りました。それで、私が室長になって最初にした仕事は、学内の教官や院生、職員に対するアンケート調査でした。その目的は、佐賀大学の電子計算機のユーザーの人数を把握すること、計算機室に対する学内の要望をまとめることでした。

調査をして行きますと、他大学特に九州大学の大型計算機センターでの使用量が、佐賀大学の電子計算機の使用量より多いこと、電子計算機を使いたくても使えない人が、意外に多いことでした。

それで、これらの理由を教官や院生にたずねてみると、「佐賀大学の電子計算機は、電子計算機ではない」。「我々の計算には使えない」。「使えないものを使えというのは無理だ」というはげしいものばかりで、ショックを受けました。使いたくとも使えない理由としては、佐賀大学の計算機が小さく古いために、何時行っても満員ということ、プログラムの指導を十分行っていないことが含まれていました。しかし、私は、なぜ早く積極的に私達に言ってくれなかったのかと反問したい衝動にかられました。

私は、電子計算機を使い始めて、15年ぐらいいになりますが、今回、自分の柄もかえりみず、電子計算機室長になって、電子計算機に関する調査をやってみて、もはや電子計算機は、特殊なものでなく必要欠くべからざるものであると思いました。と同時に、大学での電子計算機室や大型計算機センターの責任の重大さを痛感しました。

というのは、現在の大学の教官や院生は、知らず知らずのうちに、その大学やその地域の大型計算機センターの電子計算機の容量によって、研究テーマを決めているということです。ということは、その大学の研究成果は、それらの電子計算機的能力によって支配されると言っても過言ではないということです。したがって、これから先は、特定の地域や特定の人々が、大型計算機を使用する恩恵をこうむるべきではなく、全国の研究者が、平等に同一条件で大型計算機を使用できるシステムに早急に持って行くべきだと考えています。

これらのことを考えると、佐賀大学の計算機室のシステムは、おそまつの一言につきます。ユーザーの人々に申し訳なく思っています。それで、佐賀大学も新機種を導入し、九大の大型計算機と連結して、より早く情報を学内のユーザーに伝達したいと思っています。また、建物も現在のものより大きいものを建てていただき、プログラム指導も十分に行ないたいと考えています。

先輩諸氏や関係各位のご支援やご指導をお願い申し上げます。

* 佐賀大学連絡所責任者